

発行所
長野県保険医協会
〒380-0928 長野市若里 1-5-26
電話 026-226-0086
FAX 026-226-8698
E-mail nagano-hok@doc-net.or.jp
年間購読料 3,600 円
会員の購読料は会費に含まれています



2025 年（令和 7 年）6 月 5 日
No.532 （毎月 1 回 5 日発行）
（1990 年 6 月 22 日第三種郵便物認可）
主な記事
2025 年度指導計画… 2 面、歯科厚
労省懇談… 3 面、保険かわら版 / 共
済だより / 理事会便り… 4 面

マイナ保険証のトラブル解消せず 「保険証を使い続けたい」を訴える

2024 年 5 月 15 日、全国保険医団体連合会は、医療団体連絡会、中央社会保障推進協議会、マイナンバー制度反対連絡会と共催で、「保険証を使い続けたい！」署名提出集会を衆議院第 2 議員会館にて開催した。当日は、全国から約 350 名が会場に集い、オンラインでは約 70 名が参加。県保険医協会からは、宮沢会長、林副会長、市川副会長が現地で参加した。

集会では、保団連の竹田智雄会長がリレートークにて「マイナ保険証トラブル調査 第 5 弾」の概要を紹介。「2023 年から継続してきた調査も今回で 5 回目を数えるが、医療現場のトラブルは依然として解消されていない」と述べた上で、「従来の健康保険証を復活させ、マイナ保険証との併用を可能とする制度の見直しが必要である」と訴えた。

また、当日には、渋谷区および世田谷区が、国民健康保険加入者全員に資格確認書を送付する方針を決定したと



保険証の復活を訴える参加者

の報道があり、「マイナ保険証を取得した住民のみを除外するシステムがなく、92 万人区民からの問い合わせ対応を想定すると全員への送付が合理的である」との世田谷区の保坂区長の談話も紹介された。

そして集会の最後に、マイナンバー制度反対連絡会から、1. 保険証の存続を求める政党・議員との連携の強化、2. 地方議会への意見書採択を促す働きかけの強化、3. マイナ保険証の有無にかかわらず国保加入者全員への資格確認書の一律発行の要請、4. 参議院選挙を見据えた世論の喚起と署名活動の推進、といった 4 点の行動提起が行われた。

程度の数値を上乗せする「補正」後の点数を用いる。なお、平均点数算出の対象期間については、以前までは開示された資料より前年 4～9 月診療分であることがわかったが、現在は厚労省より「適正な遂行に支障を及ぼす恐れがあるため不開示」とされている。

基準平均点は、集团的個別指導や高点数個別指導の対象となる医療機関を選定する際の基準となるもので、病院の場合は県平均点数の 1.1 倍、診療所では県平均点数の 1.2 倍の値とされる。

類型区分は、病院は病院機能ごとに 3 区分、診療所は医科は診療科ごとに 12 区分、歯科は 1 区分とされている。

県選出議員へ要請署名提出

当日は県選出の国会議員事務所を訪問し、神津たけし衆議院議員、福田淳太衆議院議員、羽田次郎参議院議員、杉尾秀哉参議院議員と面談する機会を得た。その際、物価高騰・人件費上昇への対応として、診療報酬の期中改定を求める緊急要請署名（計 54 筆）を提出。医療機関が安定して診療を継続できるよう、光熱費・医療材料費等の高騰に対する十分な補填を要請した。また、合わせて 2024 年 12 月 2 日以降に実施した「マイナ保険証トラブル調査第 5 弾（長野県分）」の結果についても報告。全国集計と同様に利用率は低く、多くの医療機関で高齢者対応や機器操作の困難さ、人員不足、トラ



杉尾議員へ（中央左）へ署名を提出

ブル対応など負担が増加しており、マイナ保険証への一本化は困難であることから、健康保険証の復活と併用、無保険状態を防ぐための資格確認書の一律交付を改めて強く要請した。

なお、長野協会としては次回 6 月 5 日の国会行動で、「保険証を使い続けたい！」請願署名を国会へ提出する予定だ。

地震被災会員へ 見舞金支給

4 月 18 日、長野県北部を震源とする最大震度 5 弱の地震が発生しました。県保険医協会は周辺地域の会員医療機関へ FAX にて被害状況の確認を行い、被害報告のあった医療機関に対して、協会の規定に基づき見舞金を支給しました。

地震により、医療機関又はご自宅に被害があった会員の先生がおられましたら、事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。（Tel. 026-226-0086）

内科については、①人工透析を行うもの、②在宅療養支援診療所を届け出ているもの（人工透析を行っているものを除く）③その他（呼吸器科、循環器科、リウマチ科等を含む）に区分される。

自院の平均点数は、開設者又は管理者が直接関東信越厚生局（長野事務所）へ電話（Tel.026-474-4346）で問い合わせると、本人確認の後、各医療機関の「類型区分」と「（補正）平均点数」が折り返し回答される。

表. 2025 年度平均点数と基準平均点一覧

類型区分	平均点数 (医科診療所は補正後の平均点)	基準平均点			
		今回	参考		
			2024	2023	
			(病院は県平均×1.1、診療所は補正後県平均×1.2の各値)		
病院	一般病院	55,515	61,067	60,704	60,163
	精神病院	40,476	44,524	44,298	43,075
	臨床, 大学, 特定	70,417	77,459	76,766	74,839
医科診療所	内科①（その他）	996	1,195	1,261	1,309
	内科②（支援診）	1,165	1,398	1,477	1,537
	内科③（透析）	6,239	7,487	7,664	9,007
	精神・神経科	910	1,092	1,136	1,158
	小児科	922	1,106	1,350	1,458
	外科	1,078	1,294	1,320	1,404
	整形外科	1,015	1,218	1,176	1,187
	皮膚科	559	671	638	671
	泌尿器科	1,237	1,484	1,441	1,488
	産婦人科	1,688	2,026	1,794	1,321
	眼科	1,217	1,460	1,393	1,309
耳鼻咽喉科	661	793	808	833	
歯科		1,198	1,438	1,434	1,453

県保険医協会は関東信越厚生局長野事務所に対し、2025 年度の指導計画等に関する開示請求を行った。開示資料から本年度の平均点数と基準平均点数について紹介する。指導計画は 2 面に掲載。平均点数は、対象期間における各医療機関のレセプト 1 件あたりの平均点数を用いて算出する。医科診療所のうち院外処方医療機関に対しては、実際の平均点数にあ

る職員を確保出来なかったことが原因である。どちらか入居者がおり、特養等の次の生活場所を確保するのに数カ月を要した。診療所の夜間・休日対応や在宅患者の今後の対応にも、少なくない影響を与えている。これは介護だけでなく、中山間地においては、医療にも関係してくる。医師、看護師が不足してくると、1 人の医師が数カ所の診療所をオンラインを利用しながら運営することも、視野に入っているようだ。実際、私も数年前から、担当する二カ所の診療所の一つを、対面とオンラインの組み合わせで行っている。◆「2040 問題」というものがある。都市部で医療や介護の需要が急増して通常の対応が困難になり、地方では病院や介護事業所の撤退が相次ぎ、国内全土で深刻な医療崩壊が起きることが懸念されている。実際に、当地のような中山間地では、既に始まっている。そうすると、医療の現場では当然、死よりも生、救命が優先され、満足した終末は、お金次第という事になるのだろう。◆世の中の中として、これまで、弱者や声出せぬ者達が切り捨てられてきた。いずれは、みんな弱者となる世の中において、「それぞれが何を大切にするのか。どのような地域を望むのか」、各々の場所において問われる時代が来ている。これからは、分断させるモノではなく、繋がり

を促すモノがチカラをもってくる。（H・K）

昨年の 4 月に、私の住む町で急に、宅老所兼高齢者支援ハウスとグループホームが運営中止となった。介護度の高い利用者の死亡や施設入所が重なった事による経営困難と、夜間に従事する職員を確保出来なかったことが原因である。どちらか入居者がおり、特養等の次の生活場所を確保するのに数カ月を要した。診療所の夜間・休日対応や在宅患者の今後の対応にも、少なくない影響を与えている。これは介護だけでなく、中山間地においては、医療にも関係してくる。医師、看護師が不足してくると、1 人の医師が数カ所の診療所をオンラインを利用しながら運営することも、視野に入っているようだ。実際、私も数年前から、担当する二カ所の診療所の一つを、対面とオンラインの組み合わせで行っている。◆「2040 問題」というものがある。都市部で医療や介護の需要が急増して通常の対応が困難になり、地方では病院や介護事業所の撤退が相次ぎ、国内全土で深刻な医療崩壊が起きることが懸念されている。実際に、当地のような中山間地では、既に始まっている。そうすると、医療の現場では当然、死よりも生、救命が優先され、満足した終末は、お金次第という事になるのだろう。◆世の中の中として、これまで、弱者や声出せぬ者達が切り捨てられてきた。いずれは、みんな弱者となる世の中において、「それぞれが何を大切にするのか。どのような地域を望むのか」、各々の場所において問われる時代が来ている。これからは、分断させるモノではなく、繋がり

を促すモノがチカラをもってくる。（H・K）